

沖縄県
生涯学習に関する県民意識調査報告書

平成20年12月

沖縄県教育委員会

はじめに

21世紀を迎えた今日、社会の成熟化・産業構造の変化・高度情報化・国際化などの社会構造の急激な変化に伴い、県民は心豊かで充実した人生を求め、生涯にわたり学習活動が続けることへの関心や意欲がますます高まっています。

このような状況の中、多様化・高度化する県民のニーズに対応するため、本県では平成7年度に策定しました「沖縄県生涯学習推進計画」に基づき、学習の場の充実、多様な学習活動の活性化、生涯学習の推進体制の整備充実を図るなど、生涯学習推進に向けての環境づくりを進めてまいりました。

その実績を踏まえ、平成13年度には「第二次沖縄県生涯学習推進計画」を策定し、平成14年度から平成23年度までの10年間で、『潤いと生きがいのある生涯学習社会』を形成するため、生涯学習を総合行政として捉え、全部局が一体となって関連事業を推進しており、県教育委員会では生涯学習の推進体制・基盤の整備、学習機会の充実・拡充に努めているところであります。

今回実施した「生涯学習に関する県民意識調査」は、前回調査（平成14年度）より5カ年を経過しており、5年間の経年変化をみると同時に、県民の生涯学習への意識と行動を把握し、今後の本県における生涯学習推進施策の基礎資料を得ることを目的としています。

この調査が、関係者各方面で広く活用され、『潤いと生きがいのある生涯学習社会』の形成に役立てていただければ幸いです。

結びに、本調査を実施するにあたりご協力をいただいた県民の方々をはじめ、その他関係各位の皆様方に、深く感謝申し上げます。

平成20年12月

沖縄県教育委員会
教育長 仲村守和

目 次

はじめに

第1章 調査の概要

1-1	調査の目的と実施概要	1
1	調査の目的	1
2	調査概要	1
3	回収結果	2
4	集計・選択肢の表現について	2
1-2	回答者の属性	3
1-3	調査結果の概要	5
1	学習活動の実態	5
2	学習活動を支える条件	6
3	生涯学習の今後の方向	7
4	おきなわ県民カレッジ	8

第2章 調査結果の分析

2-1	学習活動の実態	9
1	学習分野の実態	9
2	利用施設	12
3	生涯学習活動の目的	15
4	生涯学習活動で役立ったこと	18
5	学習成果の活用状況	24
2-2	学習活動を支える条件	27
1	情報提供方法	27
2	学習活動を進めていく上での要望	30
3	学習活動に対する負担額	33
4	学習活動に要する自由時間	35

2-3	生涯学習の今後の方向	39
1	今後重要となる生涯学習	39
2	今後の学習方法	42
3	学習や活動が出来ない理由	46
4	今後参加したい学習活動	49
2-4	おきなわ県民カレッジ	52
1	おきなわ県民カレッジについて	52
2	受講状況について	55
	自由記入	58
	アンケート票	59

第1章 調査の概要

1-1 調査の目的と実施概要

1 調査の目的

社会環境が大きく変化する中で、人々の価値観も多様化・高度化しており県民のニーズに応える生涯学習を推進するに当たっては、県民意識を計画的に調査する必要がある。今回の調査は、前回の調査から4年経過しており、その間の県民意識や行動の変化を調査して、その結果を市町村や県の生涯学習施策に反映させ、より一層の生涯学習社会の推進と充実を図る為に実施するものである。

2 調査概要

(1) 調査対象と標本数及び回収数

- ①調査の対象：20歳以上の県民
- ②標本数：2,000件
- ③抽出方法：層化2段無作為抽出

母集団～県内在住の20歳以上の住民

第1次抽出	中都市（人口10万～50万人未満）	那覇市
	小都市（人口10万人未満）	名護市、宮古島市
	町村	南風原町、中城村
第2次抽出	各自治体の人口に比例した標本数を等間隔で抽出	

※平成15年度調査では小都市では名護市、石垣市、町村では北谷町、玉城村だったが、玉城村の合併に伴い、改めて対象地区の見直しを行い今回の対象市町村となった。

(2) 調査実施方法と期間

- ①調査の実施方法：郵送方式
- ②実施期間：平成20年1月～平成20年3月

(3) 調査内容

- ①対象者の属性（問1～5）
性別、年齢、住居年数、居住地、職業
- ②学習の実態（問6～11）
1年間に継続した学習、活動のための施設、学習を行う目的、学習の効果、効果の具体例、学習成果の活用状況、学習や活動ができない理由
- ③学習活動を支える条件（問12～15）
学習に関する要望、学習情報の提供方法、活動費用、自由時間
- ④生涯学習の今後の方向（問16～19）
今後重要となる生涯学習、今後の学習方法、今後参加したい学習活動
- ⑤おきなわ県民カレッジについて（問20～21）
講座について、受講した講座

3 回収結果

回収結果は以下のとおりとなる。回収数は645件でうち有効回答数は633件であり、本調査は633件の票による集計・分析を行う。

	配布数	回収数	回収率	宛先人不明戻り分
那覇市	1000	333	33.3%	13
名護市	400	105	26.3%	5
宮古島市	300	91	30.3%	4
南風原町	200	74	37.0%	2
中城村	100	39	39.0%	0
不明	—	3	—	—
計	2000	645	32.3%	24
有効回答		633	31.7%	
無効回答		12	—	

4 集計・選択肢の表現について

回答率（各回答の百分率比）は少数第2位を四捨五入した。単数回答（SA）の百分率の合計は100.0%であるが、四捨五入のため百分率比が0.05%未満は0と示されているため、見かけ上、100.0%にならないことがある。

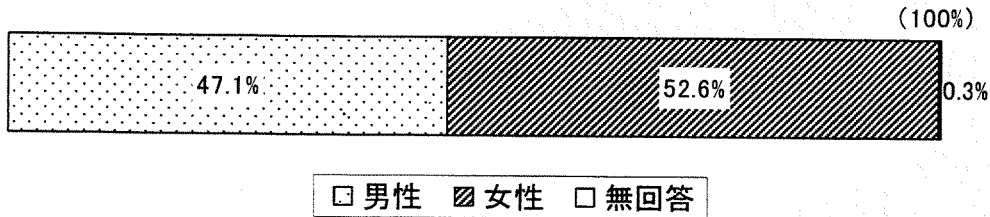
複数回答（MA）は回答者数を基数として算出しており、合計が100.0%を上回ることがある。

分析の中で回答選択肢の表現の趣旨を損なわない範囲で語句を省略し、表現を簡略した場合がある。

1 - 2 回答者の属性

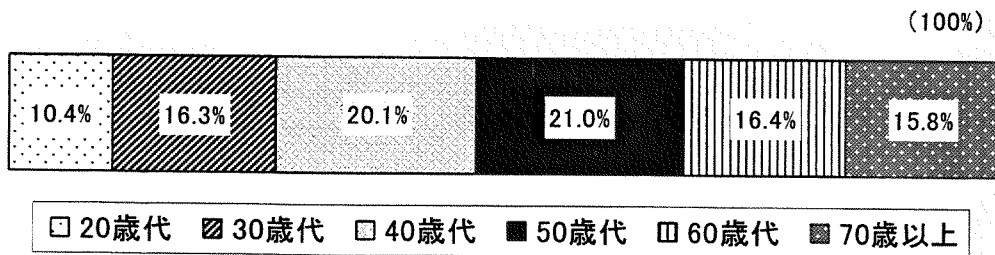
(1) 性別

	標本数	性別		無回答
		男性	女性	
有効回答	633	298	333	2
全体	100.0%	47.1%	52.6%	0.3%



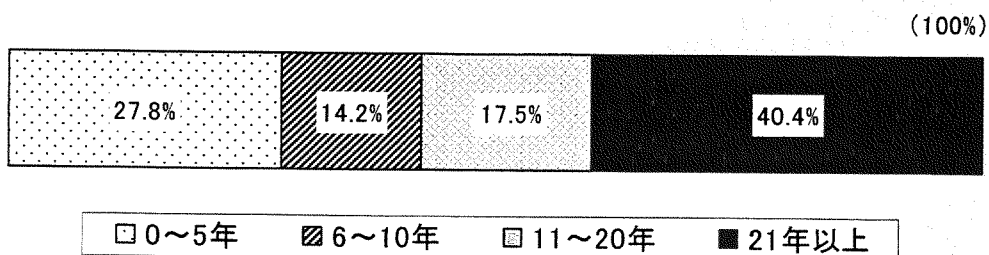
(2) 年齢

	標本数	年齢					
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
有効回答	633	66	103	127	133	104	100
全体	100.0%	10.4%	16.3%	20.1%	21.0%	16.4%	15.8%



(3) 居住年数

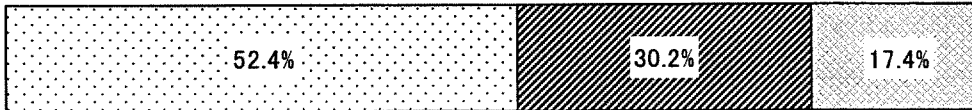
	標本数	居住年数			
		0~5年	6~10年	11~20年	21年以上
有効回答	633	176	90	111	256
全体	100.0%	27.8%	14.2%	17.5%	40.4%



(4) 居住地

	標本数	居住地		
		中都市 那覇市	小都市 :名護市 :宮古島市	町村 :南風原町 :中城村
有効回答	633	332	191	110
全 体	100.0%	52.4%	30.2%	17.4%

(100%)

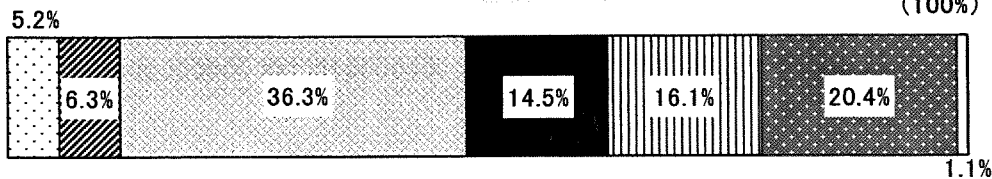


- 中都市 (那覇市)
- 小都市 (名護市・宮古島市)
- 町村 (南風原町・中城村)

(5) 職業

	標本数	職 業						無回答
		1.農・林・漁業の自営・家業従業	2.商・工・サービス業の自営・家業	3.会社・商店・工場・役場など	4.パート・アルバイト	5.無職の主婦・主夫	6.無職・無業	
有効回答	633	33	40	230	92	102	129	7
全 体	100.0%	5.2%	6.3%	36.3%	14.5%	16.1%	20.4%	1.1%

(100%)



- 1.農・林・漁業の自営・家業従業
- 2.商・工・サービス業の自営・家業
- 3.会社・商店・工場・役場など
- 4.パート・アルバイト
- 5.無職の主婦・主夫
- 6.無職・無業
- 無回答

1 - 3 調査結果の概要

1 学習活動の実態

(1) 学習分野の実態

一年間継続して学習活動を行なった分野としては、「健康に関する分野」(38.5%)の割合が最も高く、次いで「趣味・家庭生活に関する分野」(34.1%)、「産業・技術に関する分野」(28.3%)、「教養に関する分野」(21.5%)、「教育・福祉に関する分野」、「芸術・芸能に関する分野」が共に20.2%となっている。

前回調査と比較してみると、上位3項目が前回と同様の結果となっていることから、一定して健康や趣味・家庭生活、産業・技術分野に対する関心が高いことがうかがえる。

(2) 利用施設

過去一年間に学習活動のために利用した施設として、「スポーツ施設」(23.5%)、「図書館」(21.5%)、「使わなかった」(20.9%)、「公民館」(18.5%)が上位に入っている。

前回調査と比較すると、「スポーツ施設」、「図書館」、「公民館」は前回と同様、上位にあげられており、これまでどおり学習活動の場として重要な拠点となっている。

一方、「使わなかった」が前回の6位から3位に上がっていること、また、前回との差をみると、ほとんどの選択肢においてマイナスとなっていることから、特に施設を利用しない活動が増えていることがうかがえる。

(3) 生涯学習活動の目的

学習・文化活動・スポーツ活動の目的として、「健康に役立てるため」(50.6%)、「生活に生きがいを持つため」(50.4%)の2項目が過半数を占め、以下「職業に必要な知識や技術を高めるため」(33.5%)、「仲間とともに学習し向上するため」(26.4%)、「老後の生活を豊かにするため」(26.1%)が続き、それぞれ3割弱～3割強を占めている。

前回調査と比較すると、「健康に役立てるため」、「生活に生きがいを持つため」は前回同様1、2位となっており、「職業に必要な知識や技術を高めるため」、「仲間とともに学習し向上するため」、が順位を1つ上げそれぞれ3位、4位となった。「老後の生活を豊かにするため」は順位を2つ下げ5位となっている。

(4) 生涯学習で役立ったこと

①役立ったことの有無

「かなりあった」と答えた人が39.0%で最も高く、「とても多かった」(21.5%)と合わせると、学習活動の効果を感じている人は60.5%と全体の6割を占めている。前回調査と同様の順位となっているものの、学習の効果を感じている人の割合が約3%減少している。一方、効果が「あまりなかった」とする人も約5%の減少となっている。

②役立った内容

この設問は、前問で学習活動の効果があったと回答した方(「1. とても多かった」「2. かなりあった」のいずれかを選択した方)を対象にしている。

生涯学習で役立ったことについて、「必要な知識・技術が高められた」が63.7%と最も高く、次に「新しい友達を得て人間関係が広がった」(44.4%)、「生活を良くするために役立った」(42.0%)となっている。

前回調査と同様の順位となっており、自己の知識・技術力の向上や人間関係の拡大、生活の改善が主な評価となっている。

(5) 学習成果の活用状況

学習成果の活用状況を見ると、「日常生活の向上」が32.9%で最も高く、以下「特に活用していない」(26.9%)、「職業生活への活用」(20.5%)、「同好のグループやサークルづくり・参加」(16.7%)、「学習ボランティア」、「学習成果の発表」がそれぞれ6.2%と続いている。

前回調査と比較すると、上位4項目では同じ順位となっているが、「学習ボランティア」は前回の9位から5位となっている。

2 学習活動を支える条件

(1) 情報提供方法

学習や活動に関する情報の提供方法について、「新聞で」と答えた人が46.4%で最も多く、次いで「市町村の広報で」(37.6%)、「テレビで」(28.9%)、「チラシ・ポスター・パンフレットなどで」(25.3%)、「インターネットで」(13.3%)となっている。

前回調査と同様の順位で、特に新聞や市町村の広報による情報提供が求められている。

(2) 学習活動を進めていく上での要望

生涯学習活動を進める上での要望として、「学習機会を増やす」が31.8%と最も高く、以下「利用しやすい時間・曜日に開く」(29.4%)、「事業案内・講師紹介などの情報」(28.8%)、「指導者・専門家の育成」(23.2%)、「屋内スポーツ施設の整備」(17.5%)となっている。

前回調査と同じ順位となっているが、「学習機会を増やす」、「利用しやすい時間・曜日に開く」では前回より約10%減少している。

(3) 学習活動に対する負担額

生涯学習活動の自己負担限度額をみると、一人当たりの月平均限度額は5,579円となっている。これを年間で算出すると、一人当たりの年間平均限度額は66,948円となる。

前回調査によると、生涯学習活動の自己負担限度額は一人当たり月平均6,475円となっており、今回は896円減少したことになる。

1ヶ月当たりの自己負担限度額を段階別にみると、「3千円以上1万円未満」が44.4%で最も高く、次いで「1円以上3千円未満」(21.3%)、「1万以上3万円未満」(15.8%)、「0円」(2.2%)、「3万円以上」(1.7%)となっている。

(4) 学習活動に要する時間

県民が自由に使える時間の平均は、平日で2時間52分、休日で4時間49分となっている。前回調査と比較すると、前回調査では平日で3時間06分、休日で5時間24分となっており、平日で14分の減少、休日で35分の減少となっている。

①平日の自由時間

男女別でみると、男性3時間04分、女性2時間40分と、女性は男性より平日の自由時間が24分少ない。

年代別でみると、70歳以上で4時間19分と平日の自由時間が最も長くなっており、60歳代が3時間26分、20歳代が3時間11分と続いている。(全体平均2時間52分)

逆に、自由時間が短い30歳代と40歳代では、「1時間以下」の割合が他の年代に比べて高くなっており、30歳代34.0%、40歳代38.6%(全体22.3%)となっている。

②休日の自由時間

休日の自由時間の平均を男女別でみると、男性5時間24分、女性4時間14分と女性が男性より70分少ない。内訳をみると、「1時間以下」が女性12.9%、男性5.0%と女性の割合が男性の倍以上あり、「1～2時間以下」(女性16.8%、男性10.7%)、「2～3時間以下」(女性14.4%、男性12.1%)で、いずれも女性の割合が高い。

それとは逆に、「3～4時間以下」(男性14.4%、女性9.6%)、「4時間を超える」(男性48.0%、女性33.6%)ではいずれも男性の割合が高い。また、男女の自由時間の差は、平日よりも休日のほうが大きくなっている。

休日における自由時間も、平日の自由時間と同様に女性の自由時間が短い状況にあり、女性は家事や育児等の時間のため、自由時間が少ないことがうかがえる。

また、前回の調査と同様、休日の自由時間は平日よりも大幅に増えており、十分な活動時間を確保することができる状況となっている。平日と休日の自由時間の長さに応じて講座等を実施するなど、柔軟なプログラムが望まれる。

3 生涯学習の今後の方向

(1) 今後重要となる生涯学習

将来における生涯学習の重点について、「家庭教育」が42.2%と最も高く、以下「高齢者教育」(26.7%)、「少年教育」(10.7%)、「成人教育」(10.3%)、「青年教育」(4.1%)と続いている。

前回調査も同様の順位となっているが、4位の「成人教育」が前回よりも2.5%上回って10.3%となっており、子供だけの教育だけでなく大人の教育についての関心も高くなっている。

(2) 今後の学習方法

今後の学習方法として、「仲間・サークルで」が30.8%と最も高く、次いで「公民館を利用して」(27.3%)、「図書館を利用して」(26.1%)、「雑誌・新聞などの出版物を利用して」(25.1%)、「テレビ・ラジオを利用して」(21.5%)と続いている。

前回調査と比較すると、2位の「公民館を利用して」と3位の「図書館を利用して」の順位が入れ替わった形となっている。また、「民間のカルチャーセンター事業に参加して」、「私立学校（専修学校・各種学校を含む）に参加して」、「企業内の事業に参加して」以外の全ての項目において、前回調査より割合が減少している。

（3） 学習や活動ができない理由

学習や活動に参加できない理由として、「仕事・家事などのため、時間がとれない」が40.4%で最も多く、以下「経費が多くかかる」(33.6%)、「希望する内容に合った学習の機会が少ない」(30.0%)、「どんな学習や活動があるか分からない」(27.6%)、「身近に利用できる施設が少ない」(24.6%)となっている。

前回調査と比較すると前回と同様、「仕事・家事などのため、時間がとれない」が今回も1位となっている。また、前回4位の「経費が多くかかる」が今回、約5%割合を伸ばし2位となっており、経済的な理由により活動ができない人が増えてきていることがわかる。

（4） 今後参加したい学習活動

今後参加してみたい学習活動として、「健康に関する分野」が54.7%と最も多く、以下「趣味・家庭生活に関する分野」(49.0%)、「教育・福祉に関する分野」(28.8%)、「芸術・芸能に関する分野」(28.6%)、「教養に関する分野」(25.3%)と続いている。

前回調査と比較すると、「健康に関する分野」が順位を一つあげ1位となっている。また、「教育・福祉に関する分野」と「教養に関する分野」の順位が入れ替わり、今回「教育・福祉に関する分野」が3位、「教養に関する分野」が5位となっている。

4 おきなわ県民カレッジ

（1） おきなわ県民カレッジについて

おきなわ県民カレッジの認知度については、「いいえ」と答えた人が90.0%とかなり多く、「はい」と答えた人は6.6%にとどまっており、県民の間での認知度が、まだまだ低い状況となっている。

（2） 受講状況について

この設問では上記設問でおきなわ県民カレッジを知っていると答えた方42人を対象にしており、実際に講座を受講したかどうかを調査している。

「利用していない」が83.3%と最も多く、次いで「主催講座を受講した」、「県民カレッジの講座か分からない」がそれぞれ7.1%と続いている。

「主催講座を受講した」、「連携講座を受講した」を合わせても7.1%にとどまっており、県民カレッジを知っていても「利用していない」人が8割を超えた状況となっている。

第2章 調査結果の分析

2-1 学習活動の実態

(問6、問7、問8、問9、問10、問11)

1 学習分野の実態

問6 あなたがこの一年間に継続して、学習活動されたものについて、次の1~9の分野から選んでください。(いくつ選んでもかまいません)

1. 教育・福祉	6. 体育・スポーツ
2. 教養	7. 市民生活・国際理解
3. 芸術・芸能	8. 健康
4. 産業・技術	9. その他
5. 趣味・家庭生活	

一年間継続して学習活動を行なった分野としては、「健康に関する分野」(38.5%)の割合が最も高く、次いで「趣味・家庭生活に関する分野」(34.1%)、「産業・技術に関する分野」(28.3%)、「教養に関する分野」(21.5%)、「教育・福祉に関する分野」、「芸術・芸能に関する分野」が共に20.2%となっている。

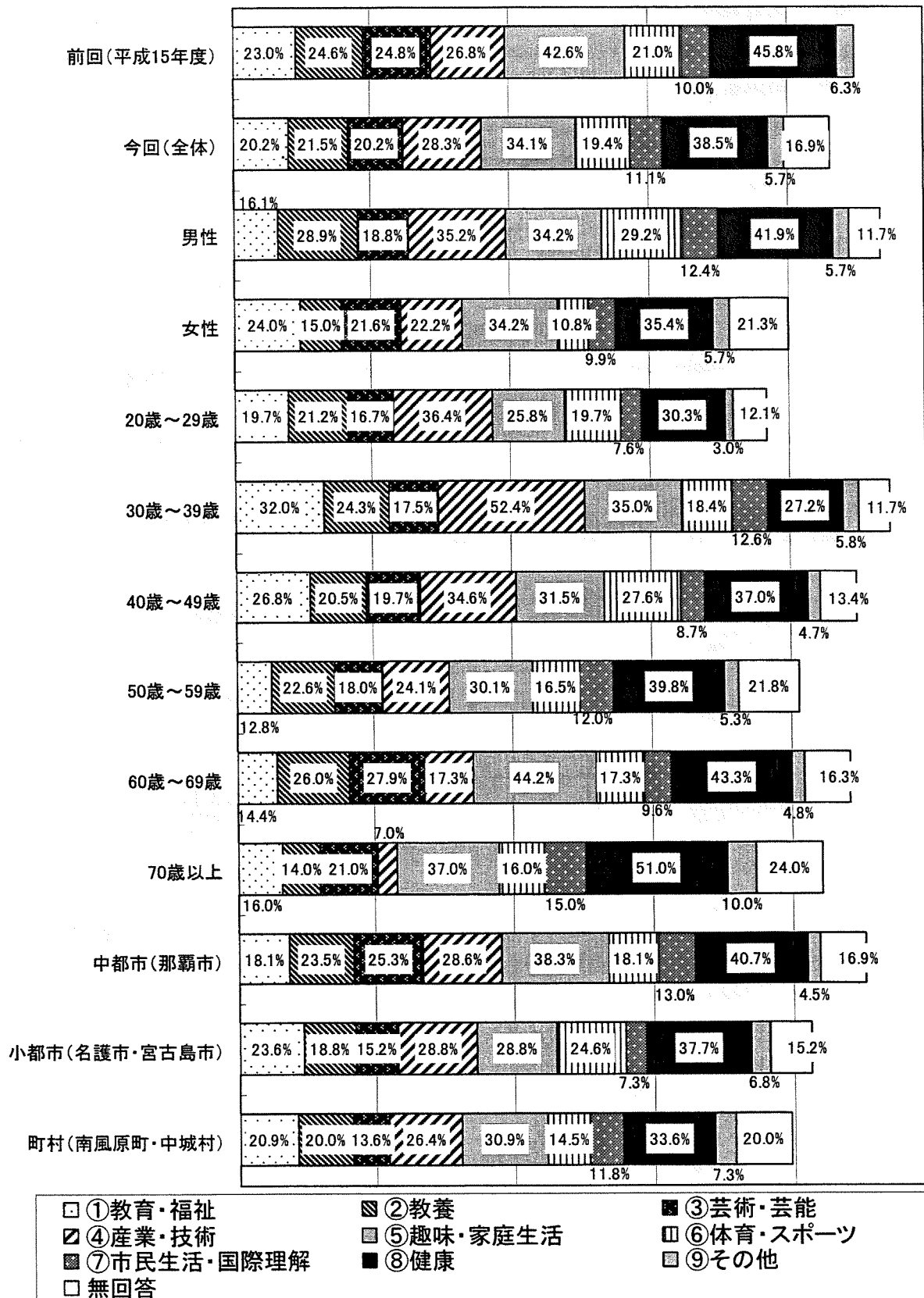
前回調査と比較してみると、上位3項目が前回と同様の結果となっていることから、一定して健康や趣味・家庭生活、産業・技術分野に対する関心が高いことがうかがえる。

	今回の順位 (%)	H15年度調査 (%)
健康に関する分野	1 (38.5%)	1 (45.8%)
趣味・家庭生活に関する分野	2 (34.1%)	2 (42.6%)
産業・技術に関する分野	3 (28.3%)	3 (26.8%)
教養に関する分野	4 (21.5%)	5 (24.6%)
教育・福祉に関する分野	5 (20.2%)	6 (23.0%)
芸術・芸能に関する分野	5 (20.2%)	4 (24.8%)

男女別にみると、男性で「健康」(41.9%)、「産業・技術」(35.2%)、「趣味・家庭生活」(34.2%)が上位3つとなっており、女性では、「健康」(35.4%)、「趣味・家庭生活」(34.2%)、「教育・福祉」(24.0%)が上位3つとなっている。

違いがみられたのが、男性では、「教養」と「産業・技術」、「体育・スポーツ」の項目で女性を10%以上上回っており、逆に女性が男性を上回っている項目は「教育・福祉」と「芸術・芸能」の2つで、それぞれ、7.9%と2.8%の差となっている。

年代別にみると、「健康」については年代が高いほど割合が高くなる傾向にあり、特に70歳以上では過半数を占めている。また、若い年代ほど割合が高い傾向がみられるのが「産業・技術」となっており、30歳代では52.4%を占めている。その他の特徴は、60歳代で「趣味・家庭生活」についてが44.2%と比較的高い割合を示している。おおむね、それぞれの年代のライフステージにおける関心事を反映した特徴がうかがえる。



	標本数	一年間継続して学習活動した分野									無回答	
		①教育・福祉	②教養	③芸術・芸能	④産業・技術	⑤趣味・家庭生活	⑥体育・スポーツ	⑦市民生活・国際理解	⑧健康	⑨その他		
前回 (平成15年度)	448	103	110	111	120	191	94	45	205	28	0	
	100.0%	23.0%	24.6%	24.8%	26.8%	42.6%	21.0%	10.0%	45.8%	6.3%	0.0%	
今回(全体)	633	128	136	128	179	216	123	70	244	36	107	
	100.0%	20.2%	21.5%	20.2%	28.3%	34.1%	19.4%	11.1%	38.5%	5.7%	16.9%	
性別	男性	298	48	86	56	105	102	87	37	125	17	35
		100.0%	16.1%	28.9%	18.8%	35.2%	34.2%	29.2%	12.4%	41.9%	5.7%	11.7%
	女性	333	80	50	72	74	114	36	33	118	19	71
		100.0%	24.0%	15.0%	21.6%	22.2%	34.2%	10.8%	9.9%	35.4%	5.7%	21.3%
無回答	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.3%	
年齢	20歳～29歳	66	13	14	11	24	17	13	5	20	2	8
		100.0%	19.7%	21.2%	16.7%	36.4%	25.8%	19.7%	7.6%	30.3%	3.0%	12.1%
	30歳～39歳	103	33	25	18	54	36	19	13	28	6	12
		100.0%	32.0%	24.3%	17.5%	52.4%	35.0%	18.4%	12.6%	27.2%	5.8%	11.7%
	40歳～49歳	127	34	26	25	44	40	35	11	47	6	17
		100.0%	26.8%	20.5%	19.7%	34.6%	31.5%	27.6%	8.7%	37.0%	4.7%	13.4%
	50歳～59歳	133	17	30	24	32	40	22	16	53	7	29
		100.0%	12.8%	22.6%	18.0%	24.1%	30.1%	16.5%	12.0%	39.8%	5.3%	21.8%
	60歳～69歳	104	15	27	29	18	46	18	10	45	5	17
		100.0%	14.4%	26.0%	27.9%	17.3%	44.2%	17.3%	9.6%	43.3%	4.8%	16.3%
	70歳以上	100	16	14	21	7	37	16	15	51	10	24
		100.0%	16.0%	14.0%	21.0%	7.0%	37.0%	16.0%	15.0%	51.0%	10.0%	24.0%
居住地	中都市 (那覇市)	332	60	78	84	95	127	60	43	135	15	56
		100.0%	18.1%	23.5%	25.3%	28.6%	38.3%	18.1%	13.0%	40.7%	4.5%	16.9%
	小都市(名護市・ 宮古島市)	191	45	36	29	55	55	47	14	72	13	29
		100.0%	23.6%	18.8%	15.2%	28.8%	28.8%	24.6%	7.3%	37.7%	6.8%	15.2%
町村(南風原町・ 中城村)	110	23	22	15	29	34	16	13	37	8	22	
	100.0%	20.9%	20.0%	13.6%	26.4%	30.9%	14.5%	11.8%	33.6%	7.3%	20.0%	

2 利用施設

問7 あなたが過去一年間に趣味活動や学習活動するために、使われた施設はどんなところですか。(4つまで選んでください)

1. 公民館	8. 会社の研修施設
2. 図書館	9. 民間のカルチャーセンター
3. 博物館	10. 民間のお稽古場
4. 青少年施設	11. 学校の施設
5. 婦人施設	12. 個人の家
6. 老人福祉施設	13. その他
7. スポーツ施設	14. この一年間に施設を使わなかった

過去一年間に学習活動のために利用した施設として、「スポーツ施設」(23.5%)、「図書館」(21.5%)、「使わなかった」(20.9%)、「公民館」(18.5%)が上位に入っている。

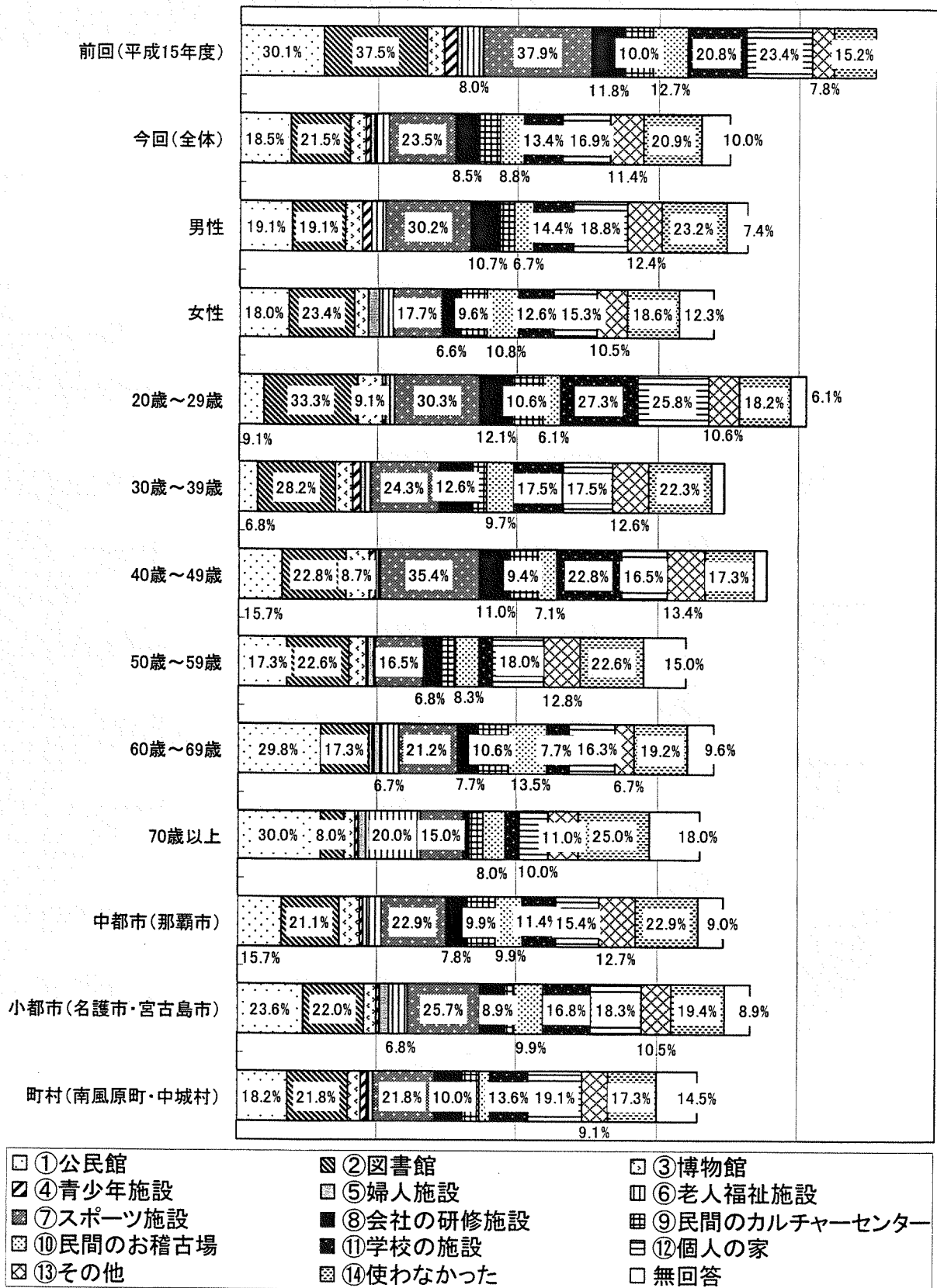
前回調査と比較すると、「スポーツ施設」、「図書館」、「公民館」は前回と同様、上位にあがっており、これまでどおり学習活動の場として重要な拠点となっている。

一方、「使わなかった」が前回の6位から3位に上がっていること、また、前回との差をみると、ほとんどの選択肢においてマイナスとなっていることから、特に施設を利用しない活動が増えていることがうかがえる。

	今回の順位 (%)	H15 年度調査 (%)	前回との差
スポーツ施設	1 (23.5%)	1 (37.9%)	▲14.4%
図書館	2 (21.5%)	2 (37.5%)	▲16.0%
使わなかった	3 (20.9%)	6 (15.2%)	▲ 5.7%
公民館	4 (18.5%)	3 (30.1%)	▲11.6%
個人の家	5 (16.9%)	4 (23.4%)	▲ 6.5%
学校の施設	6 (13.4%)	5 (20.8%)	▲ 7.4%

男女別にみると、ほとんどの項目において、利用施設の男女差は小さい状況にある。その中で「スポーツ施設」については、男性 30.2%が女性 17.7%を 12.5%上回っており、スポーツ施設の利用が比較的高い状況がうかがえる。

年齢別にみると、「スポーツ施設」が 40 歳代 35.4%と他の年代よりも割合が高く、以下 20 歳代 30.3%、30 歳代 24.3%と続いている。「図書館」については、年齢が若いほど利用の割合が増えており、20 歳代で 33.3% (全体 21.5%) と高くなっている。「公民館」については、年齢が高くなるにつれて、利用の割合が高くなる傾向にあり、60 歳代、70 歳代で約 30% (全体 18.5%) となっている。



	標本数	過去一年間に生涯学習活動のために使用した施設																
		①公民館	②図書館	③博物館	④青少年施設	⑤婦人施設	⑥老人福祉施設	⑦スポーツ施設	⑧会社の研修施設	⑨民間のカルチャーセンター	⑩民間のお稽古場	⑪学校の施設	⑫個人の家	⑬その他	⑭使わなかった	無回答		
前回 (平成15年度)	448	135	168	27	19	8	36	170	53	45	57	93	105	35	68	0		
	100.0%	30.1%	37.5%	6.0%	4.2%	1.8%	8.0%	37.9%	11.8%	10.0%	12.7%	20.8%	23.4%	7.8%	15.2%	0.0%		
今回(全体)	633	117	136	36	10	12	32	149	54	47	56	85	107	72	132	63		
	100.0%	18.5%	21.5%	5.7%	1.6%	1.9%	5.1%	23.5%	8.5%	7.4%	8.8%	13.4%	16.9%	11.4%	20.9%	10.0%		
性別	男性	298	57	57	19	9	0	15	90	32	15	20	43	56	37	69	22	
		100.0%	19.1%	19.1%	6.4%	3.0%	0.0%	5.0%	30.2%	10.7%	5.0%	6.7%	14.4%	18.8%	12.4%	23.2%	7.4%	
	女性	333	60	78	17	1	12	17	59	22	32	36	42	51	35	62	41	
		100.0%	18.0%	23.4%	5.1%	0.3%	3.6%	5.1%	17.7%	6.6%	9.6%	10.8%	12.6%	15.3%	10.5%	18.6%	12.3%	
無回答	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		
	0.6%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%		
年齢	20歳～29歳	66	6	22	6	1	1	1	20	8	7	4	18	17	7	12	4	
		100.0%	9.1%	33.3%	9.1%	1.5%	1.5%	1.5%	30.3%	12.1%	10.6%	6.1%	27.3%	25.8%	10.6%	18.2%	6.1%	
	30歳～39歳	103	7	29	6	3	2	2	25	13	5	10	18	18	13	23	5	
		100.0%	6.8%	28.2%	5.8%	2.9%	1.9%	1.9%	24.3%	12.6%	4.9%	9.7%	17.5%	17.5%	12.6%	22.3%	4.9%	
	40歳～49歳	127	20	29	11	3	1	1	45	14	12	9	29	21	17	22	6	
		100.0%	15.7%	22.8%	8.7%	2.4%	0.8%	0.8%	35.4%	11.0%	9.4%	7.1%	22.8%	16.5%	13.4%	17.3%	4.7%	
	50歳～59歳	133	23	30	8	1	3	1	22	9	7	11	7	24	17	30	20	
		100.0%	17.3%	22.6%	6.0%	0.8%	2.3%	0.8%	16.5%	6.8%	5.3%	8.3%	5.3%	18.0%	12.8%	22.6%	15.0%	
	60歳～69歳	104	31	18	1	1	2	7	22	8	11	14	8	17	7	20	10	
		100.0%	29.8%	17.3%	1.0%	1.0%	1.9%	6.7%	21.2%	7.7%	10.6%	13.5%	7.7%	16.3%	6.7%	19.2%	9.6%	
	70歳以上	100	30	8	4	1	3	20	15	2	5	8	5	10	11	25	18	
		100.0%	30.0%	8.0%	4.0%	1.0%	3.0%	20.0%	15.0%	2.0%	5.0%	8.0%	5.0%	10.0%	11.0%	25.0%	18.0%	
	居住地	中都市 (那覇市)	332	52	70	23	5	5	17	76	26	33	33	38	51	42	76	30
			100.0%	15.7%	21.1%	6.9%	1.5%	1.5%	5.1%	22.9%	7.8%	9.9%	9.9%	11.4%	15.4%	12.7%	22.9%	9.0%
小都市(名護市・宮古島市)		191	45	42	8	3	6	13	49	17	7	19	32	35	20	37	17	
		100.0%	23.6%	22.0%	4.2%	1.6%	3.1%	6.8%	25.7%	8.9%	3.7%	9.9%	16.8%	18.3%	10.5%	19.4%	8.9%	
町村(南風原町・中城村)	110	20	24	5	2	1	2	24	11	7	4	15	21	10	19	16		
	100.0%	18.2%	21.8%	4.5%	1.8%	0.9%	1.8%	21.8%	10.0%	6.4%	3.6%	13.6%	19.1%	9.1%	17.3%	14.5%		

3 生涯学習活動の目的

問8 あなたが学習や文化活動、スポーツ活動しているときの目的は、どんなことでしょうか。(5つまで選んでください)

- | |
|-------------------------|
| 1. 職業に必要な知識や技術を高めるため |
| 2. 職業などに必要な資格を得るため |
| 3. 社会の変化に遅れないため |
| 4. 趣味を活かした生活に生きがいを持つため |
| 5. 老後の生活を豊かにするため |
| 6. 家庭生活に必要な知識や技術を高めるため |
| 7. 気のあった仲間とともに学習し向上するため |
| 8. 地域社会にいつそう役立てるため |
| 9. 健康に役立てるため |
| 10. その他 |

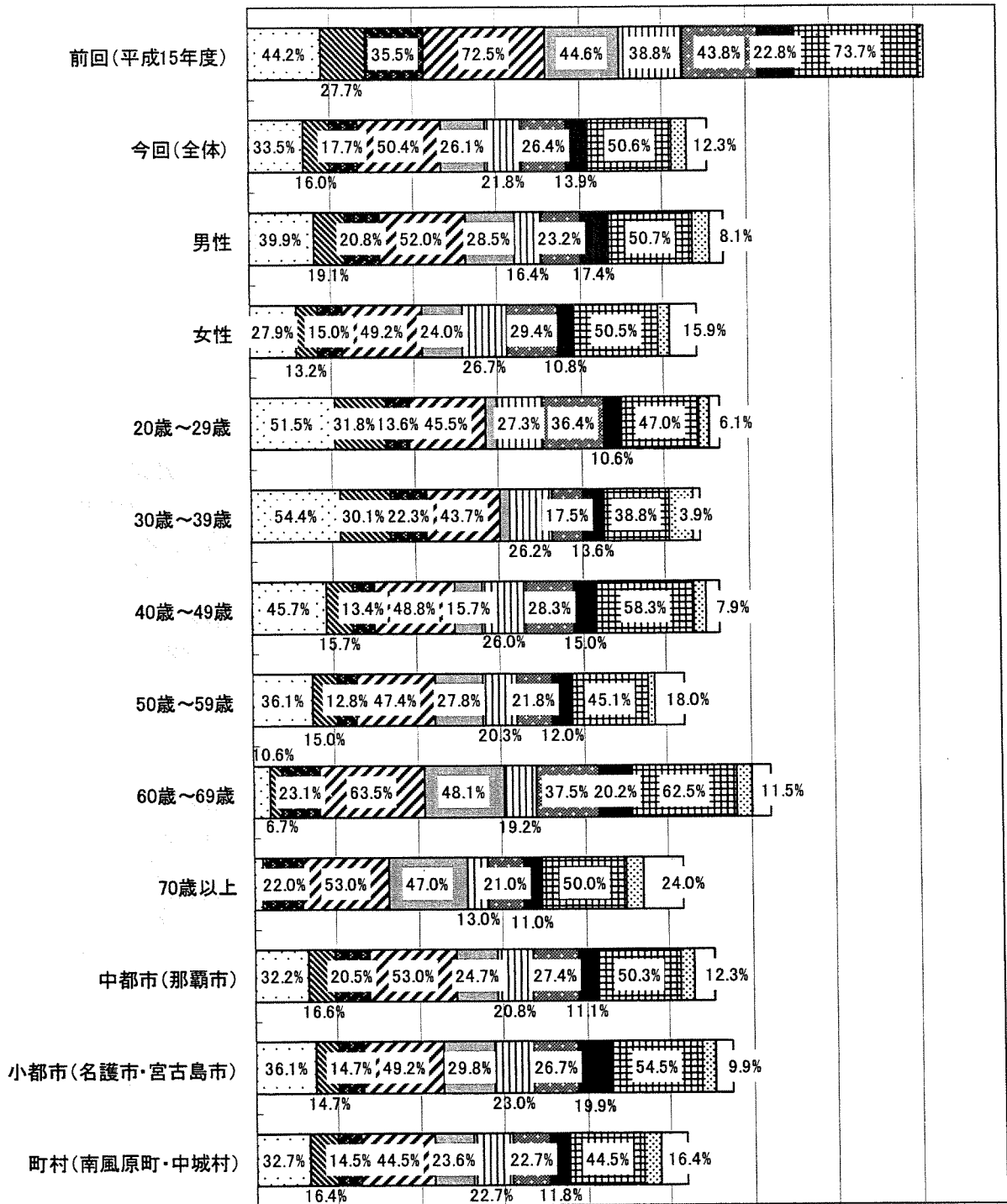
学習・文化活動・スポーツ活動の目的として、「健康に役立てるため」(50.6%)、「生活に生きがいを持つため」(50.4%)の2項目が過半数を占め、以下「職業に必要な知識や技術を高めるため」(33.5%)、「仲間とともに学習し向上するため」(26.4%)、「老後の生活を豊かにするため」(26.1%)が続き、それぞれ3割弱～3割強を占めている。

前回調査と比較すると、「健康に役立てるため」、「生活に生きがいを持つため」は前回同様1、2位となっており、「職業に必要な知識や技術を高めるため」、「仲間とともに学習し向上するため」、が順位を1つ上げそれぞれ3位、4位となった。「老後の生活を豊かにするため」は順位を2つ下げ5位となっている。

	今回の順位 (%)	H15 年度調査 (%)
健康に役立てるため	1 (50.6%)	1 (73.7%)
生活に生きがいを持つため	2 (50.4%)	2 (72.5%)
職業に必要な知識や技術を高めるため	3 (33.5%)	4 (44.2%)
仲間とともに学習し向上するため	4 (26.4%)	5 (43.8%)
老後の生活を豊かにするため	5 (26.1%)	3 (44.6%)

男女別にみると、男性が女性を上回っている項目は、「職業に必要な知識や技術を高めるため」(男性 39.9%、女性 27.9%)、「職業などに必要な資格を得るため」(男性 19.1%、女性 13.2%)、「地域社会にいつそう役立てるため」(男性 17.4%、女性 10.8%)の3項目が主な目的となっている。逆に、女性が男性を上回っている項目は、「家庭生活に必要な知識や技術を高めるため」(女性 26.7%、男性 16.4%)、「仲間とともに学習し向上するため」(女性 29.4%、男性 23.2%)の2項目が主な目的となっている。

年代別にみると、「職業に必要な知識や技術を高めるため」と「職業などに必要な資格を得るため」の2項目は、年代が若いほど割合が高くなる傾向にある。「生活に生きがいを持つため」と「健康に役立てるため」の2項目は、各年齢層において高い割合を占め、各年代にわたって共通した主要な目的となっている。



- ①職業に必要な知識や技術を高めるため
- ②職業などに必要な資格を得るため
- ③社会の変化に遅れないため
- ▨ ④生活に生きがいを持つため
- ▨ ⑤老後の生活を豊かにするため
- ▨ ⑥家庭生活に必要な知識や技術を高めるため
- ▨ ⑦仲間とともに学習し向上するため
- ⑧地域社会にいつそう役立つため
- ▨ ⑨健康に役立つため
- ▨ ⑩その他
- 無回答

	標本数	学習や文化活動、スポーツ活動の目的												
		①職業に必要 な知識や技 術を高め るため	②職業な どに必要 な資格を 得るため	③社会の 変化に遅 れないた め	④生活に 生きがい を持つた め	⑤老後の 生活を豊 かにする ため	⑥家庭生 活に必要 な知識や 技	⑦仲間と ともに学 習し向上 するた め	⑧地域社 会にいつ そう役立 て	⑨健康に 役立てる ため	⑩その他	無回答		
前回 (平成15年度)	448	198	124	159	325	200	174	196	102	330	14	0		
	100.0%	44.2%	27.7%	35.5%	72.5%	44.6%	38.8%	43.8%	22.8%	73.7%	3.1%	0.0%		
今回(全体)	633	212	101	112	319	165	138	167	88	320	54	78		
	100.0%	33.5%	16.0%	17.7%	50.4%	26.1%	21.8%	26.4%	13.9%	50.6%	8.5%	12.3%		
性別	男性	298	119	57	62	155	85	49	69	52	151	31	24	
		100.0%	39.9%	19.1%	20.8%	52.0%	28.5%	16.4%	23.2%	17.4%	50.7%	10.4%	8.1%	
	女性	333	93	44	50	164	80	89	98	36	168	23	53	
	100.0%	27.9%	13.2%	15.0%	49.2%	24.0%	26.7%	29.4%	10.8%	50.5%	6.9%	15.9%		
無回答	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.3%	
年齢	20歳～29歳	66	34	21	9	30	5	18	24	7	31	4	4	
		100.0%	51.5%	31.8%	13.6%	45.5%	7.6%	27.3%	36.4%	10.6%	47.0%	6.1%	6.1%	
	30歳～39歳	103	56	31	23	45	6	27	18	14	40	15	4	
		100.0%	54.4%	30.1%	22.3%	43.7%	5.8%	26.2%	17.5%	13.6%	38.8%	14.6%	3.9%	
	40歳～49歳	127	58	20	17	62	20	33	36	19	74	9	10	
		100.0%	45.7%	15.7%	13.4%	48.8%	15.7%	26.0%	28.3%	15.0%	58.3%	7.1%	7.9%	
	50歳～59歳	133	48	20	17	63	37	27	29	16	60	6	24	
		100.0%	36.1%	15.0%	12.8%	47.4%	27.8%	20.3%	21.8%	12.0%	45.1%	4.5%	18.0%	
	60歳～69歳	104	11	7	24	66	50	20	39	21	65	9	12	
		100.0%	10.6%	6.7%	23.1%	63.5%	48.1%	19.2%	37.5%	20.2%	62.5%	8.7%	11.5%	
	70歳以上	100	5	2	22	53	47	13	21	11	50	11	24	
		100.0%	5.0%	2.0%	22.0%	53.0%	47.0%	13.0%	21.0%	11.0%	50.0%	11.0%	24.0%	
	居住地	中都市 (那覇市)	332	107	55	68	176	82	69	91	37	167	27	41
			100.0%	32.2%	16.6%	20.5%	53.0%	24.7%	20.8%	27.4%	11.1%	50.3%	8.1%	12.3%
小都市(名護 市・宮古島市)		191	69	28	28	94	57	44	51	38	104	16	19	
		100.0%	36.1%	14.7%	14.7%	49.2%	29.8%	23.0%	26.7%	19.9%	54.5%	8.4%	9.9%	
町村(南風原 町・中城村)	110	36	18	16	49	26	25	25	13	49	11	18		
	100.0%	32.7%	16.4%	14.5%	44.5%	23.6%	22.7%	22.7%	11.8%	44.5%	10.0%	16.4%		

4 生涯学習活動で役立ったこと

(1) 役立ったことの有無

問9 学習活動したり、学習に参加したりして、役立つことができましたか。(1つ選んで下さい)

1. とても多かった	3. あまりなかった
2. かなりあった	4. まったくなかった

「かなりあった」と答えた人が 39.0%で最も高く、「とても多かった」(21.5%)と合わせると、学習活動の効果を感じている人は 60.5%と全体の6割を占めている。前回調査と同様の順位となっているものの、学習の効果を感じている人の割合が約3%減少している。一方、効果が「あまりなかった」とする人も約5%の減少となっている。

	今回の順位 (%)	H15 年度調査 (%)
かなりあった	1 (39.0%)	1 (42.2%)
とても多かった	2 (21.5%)	2 (21.2%)
あまりなかった	3 (15.5%)	3 (20.8%)
まったくなかった	4 (4.1%)	4 (2.7%)

男女別にみると、男性、女性ともに同様な傾向にあり、差はあまりない。

年代別にみると、「とても多かった」は年代が若くなるにつれて割合が高くなっており、「かなりあった」は20歳代 39.4%、30歳代 52.4%、40歳代 44.1%、60歳代 44.2%が全体の 39.0%を上回っている。一方、「あまりなかった」では20歳代 19.7%、50歳代 19.5%が全体の 15.5%を上回っており、学習活動の効果に対する認識としては比較的厳しい意見となっている。

総合評価として、ポイントで数値化する。計算式、指標は以下の通りである。

$$\text{総合評価} = \{(\text{「とても多かった」の割合}) \times 2 + (\text{「かなりあった」の割合}) \times 1 + (\text{「あまりなかった」の割合}) \times (-1) + (\text{「まったくなかった」の割合}) \times (-2)\} / (100 - \text{無回答の割合}) \times 100$$

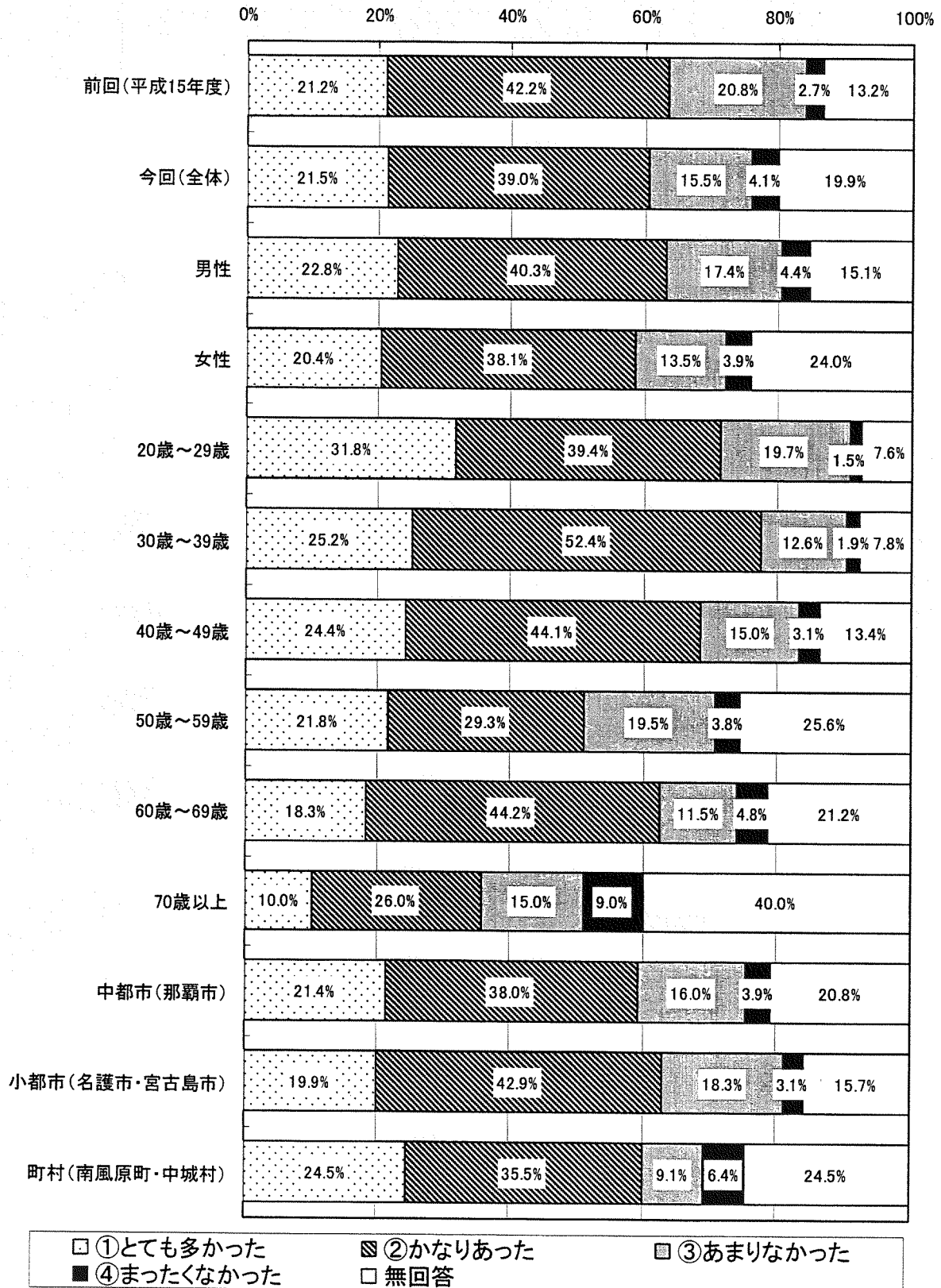
「とても多かった」→2ポイント	「かなりあった」→1ポイント
「あまりなかった」→-1ポイント	「まったくなかった」→-2ポイント
*無回答は総合的評価の計算から除外	

年齢別総合評価は下表の通りである。

総合評価が最も高いのが、30歳代の 0.864 ポイントであり、学習活動の効果を感じることが分かる。次に20歳代で 0.803 ポイント、40歳代 0.716 ポイントとなっている。

(単位：ポイント)

年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
総合評価	0.803	0.864	0.716	0.458	0.596	0.129



		標本数	①	②	③	④	無回答	
			とても多かった	かなりあった	あまりなかった	まったくなかった		
前回 (平成15年度)		448	95	189	93	12	59	
		100.0%	21.2%	42.2%	20.8%	2.7%	13.2%	
今回(全体)		633	136	247	98	26	126	
		100.0%	21.5%	39.0%	15.5%	4.1%	19.9%	
性別	男性	298	68	120	52	13	45	
		100.0%	22.8%	40.3%	17.4%	4.4%	15.1%	
	女性	333	68	127	45	13	80	
		100.0%	20.4%	38.1%	13.5%	3.9%	24.0%	
無回答	2	0	0	1	0	1		
	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%		
年齢	20歳～29歳	66	21	26	13	1	5	
		100.0%	31.8%	39.4%	19.7%	1.5%	7.6%	
	30歳～39歳	103	26	54	13	2	8	
		100.0%	25.2%	52.4%	12.6%	1.9%	7.8%	
	40歳～49歳	127	31	56	19	4	17	
		100.0%	24.4%	44.1%	15.0%	3.1%	13.4%	
	50歳～59歳	133	29	39	26	5	34	
		100.0%	21.8%	29.3%	19.5%	3.8%	25.6%	
	60歳～69歳	104	19	46	12	5	22	
		100.0%	18.3%	44.2%	11.5%	4.8%	21.2%	
	70歳以上	100	10	26	15	9	40	
		100.0%	10.0%	26.0%	15.0%	9.0%	40.0%	
	居住地	中都市 (那覇市)	332	71	126	53	13	69
			100.0%	21.4%	38.0%	16.0%	3.9%	20.8%
小都市(名護市・宮古島市)		191	38	82	35	6	30	
		100.0%	19.9%	42.9%	18.3%	3.1%	15.7%	
町村(南風原町・中城村)	110	27	39	10	7	27		
	100.0%	24.5%	35.5%	9.1%	6.4%	24.5%		

(2) 役立った内容

問10 役に立ったことは、どれですか。(3つ選んでください)

1. 必要な知識・技術が高められた
2. 生活をよくするために役立った
3. 学習の楽しみがわかった
4. 必要な資格を得られた
5. 働くほかに生きがいをもてた
6. 地域の活動に参加できるようになった
7. 新しい友達を得て人間関係が広がった
8. その他 ()

この設問は、前問(問9)の学習活動の効果があつたと回答した方(「1. とても多かった」「2. かなりあつた」のいずれかを選択した方)を対象にしている。

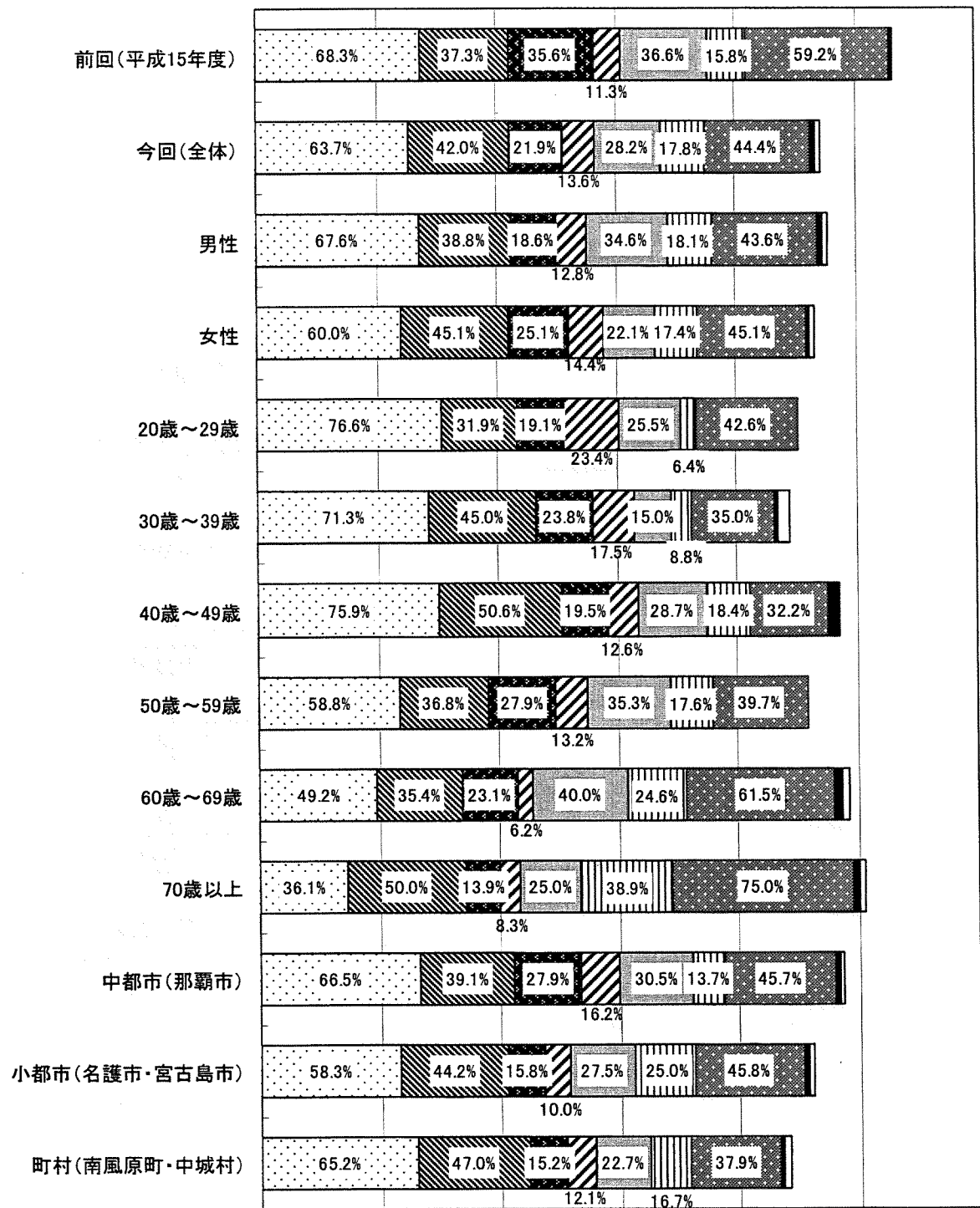
生涯学習で役立ったことについて、「必要な知識・技術が高められた」が63.7%と最も高く、次に「新しい友達を得て人間関係が広がった」(44.4%)、「生活を良くするために役立った」(42.0%)となっている。

前回調査と同様の順位となっており、自己の知識・技術力の向上や人間関係の拡大、生活の改善が主な評価となっている。

	今回の順位 (%)	H15 年度調査 (%)
必要な知識・技術が高められた	1 (63.7%)	1 (68.3%)
新しい友達を得て人間関係が広がった	2 (44.4%)	2 (59.2%)
生活を良くするために役立った	3 (42.0%)	3 (37.3%)
働くほかに生きがいを持てた	4 (28.2%)	4 (36.6%)
学習の楽しみが分かった	5 (21.9%)	5 (35.6%)

男女別にみると、男性が女性を特に上回っている項目は、「必要な知識・技術が高められた」(男性 67.6%、女性 60.0%)、「働くほかに生きがいを持てた」(男性 34.6%、女性 22.1%)である。女性が男性を特に上回っている項目は、「生活を良くするために役立った」(女性 45.1%、男性 38.8%)、「学習の楽しみが分かった」(女性 25.1%、男性 18.6%)である。

年齢別にみると、「必要な知識・技術が高められた」が若い年代ほど割合が高い傾向にある。「新しい友達を得て人間関係が広がった」では、全体の44.4%と比べて60歳代が61.5%、70歳以上が75.0%とかなり高い割合となっている。また、60歳代では「働くほかに生きがいを持てた」が40.0%(全体28.3%)と他年代に比べて高い。



- ① 必要な知識・技術が高められた
- ② 生活を良くするために役立った
- ③ 学習の楽しみが分かった
- ④ 必要な資格を得られた
- ⑤ 働くほかに生きがいを持った
- ⑥ 地域の活動に参加できるようになった
- ⑦ 新しい友達を得て人間関係が広がった
- ⑧ その他
- 無回答

	標本数	役立ったこと									
		①必要な知識・技術が高められた	②生活を良くするために役立った	③学習の楽しみが分かった	④必要な資格を得られた	⑤働くほかに生きがいを持てた	⑥地域の活動に参加できるようになった	⑦新しい友達を得て人間関係が広がった	⑧その他	無回答	
前回 (平成15年度)	284	194	106	101	32	104	45	168	5	0	
	100.0%	68.3%	37.3%	35.6%	11.3%	36.6%	15.8%	59.2%	1.8%	0.0%	
今回(全体)	383	244	161	84	52	108	68	170	8	7	
	100.0%	63.7%	42.0%	21.9%	13.6%	28.2%	17.8%	44.4%	2.1%	1.8%	
性別 男性	188	127	73	35	24	65	34	82	5	3	
	100.0%	67.6%	38.8%	18.6%	12.8%	34.6%	18.1%	43.6%	2.7%	1.6%	
女性	195	117	88	49	28	43	34	88	3	4	
	100.0%	60.0%	45.1%	25.1%	14.4%	22.1%	17.4%	45.1%	1.5%	2.1%	
年齢	20歳～29歳	47	36	15	9	11	12	3	20	0	0
		100.0%	76.6%	31.9%	19.1%	23.4%	25.5%	6.4%	42.6%	0.0%	0.0%
	30歳～39歳	80	57	36	19	14	12	7	28	1	4
		100.0%	71.3%	45.0%	23.8%	17.5%	15.0%	8.8%	35.0%	1.3%	5.0%
	40歳～49歳	87	66	44	17	11	25	16	28	4	0
		100.0%	75.9%	50.6%	19.5%	12.6%	28.7%	18.4%	32.2%	4.6%	0.0%
	50歳～59歳	68	40	25	19	9	24	12	27	0	0
		100.0%	58.8%	36.8%	27.9%	13.2%	35.3%	17.6%	39.7%	0.0%	0.0%
	60歳～69歳	65	32	23	15	4	26	16	40	2	2
		100.0%	49.2%	35.4%	23.1%	6.2%	40.0%	24.6%	61.5%	3.1%	3.1%
	70歳以上	36	13	18	5	3	9	14	27	1	1
		100.0%	36.1%	50.0%	13.9%	8.3%	25.0%	38.9%	75.0%	2.8%	2.8%
居住地	中都市 (那覇市)	197	131	77	55	32	60	27	90	5	2
		100.0%	66.5%	39.1%	27.9%	16.2%	30.5%	13.7%	45.7%	2.5%	1.0%
	小都市(名護市・宮古島市)	120	70	53	19	12	33	30	55	2	3
		100.0%	58.3%	44.2%	15.8%	10.0%	27.5%	25.0%	45.8%	1.7%	2.5%
町村(南風原町・中城村)	66	43	31	10	8	15	11	25	1	2	
	100.0%	65.2%	47.0%	15.2%	12.1%	22.7%	16.7%	37.9%	1.5%	3.0%	

5 学習成果の活用状況

問 11 あなたの学習成果の活用状況をお聞きします。番号を選んで下さい。(いくつでも選んでください)

1. 特に活用していない
2. 講座・教室・講演などの講師
3. 同好のグループやサークルづくり、または参加
4. 自主的な団体活動（国際交流・環境問題・消費者問題等の社会的課題）
5. 学習ボランティア（講師、学習アシスタント、環境整備、部活動の指導者等）
6. 青少年活動
7. 上記以外のボランティア（福祉分野等）
8. 日常生活の向上（家庭生活の改善・健康管理等の向上）
9. 職業生活への活用（転職・資格取得・仕事の合理化等）
10. 上記以外の活用
11. 学習成果の発表（発表会・展示会・発表誌等の発行）

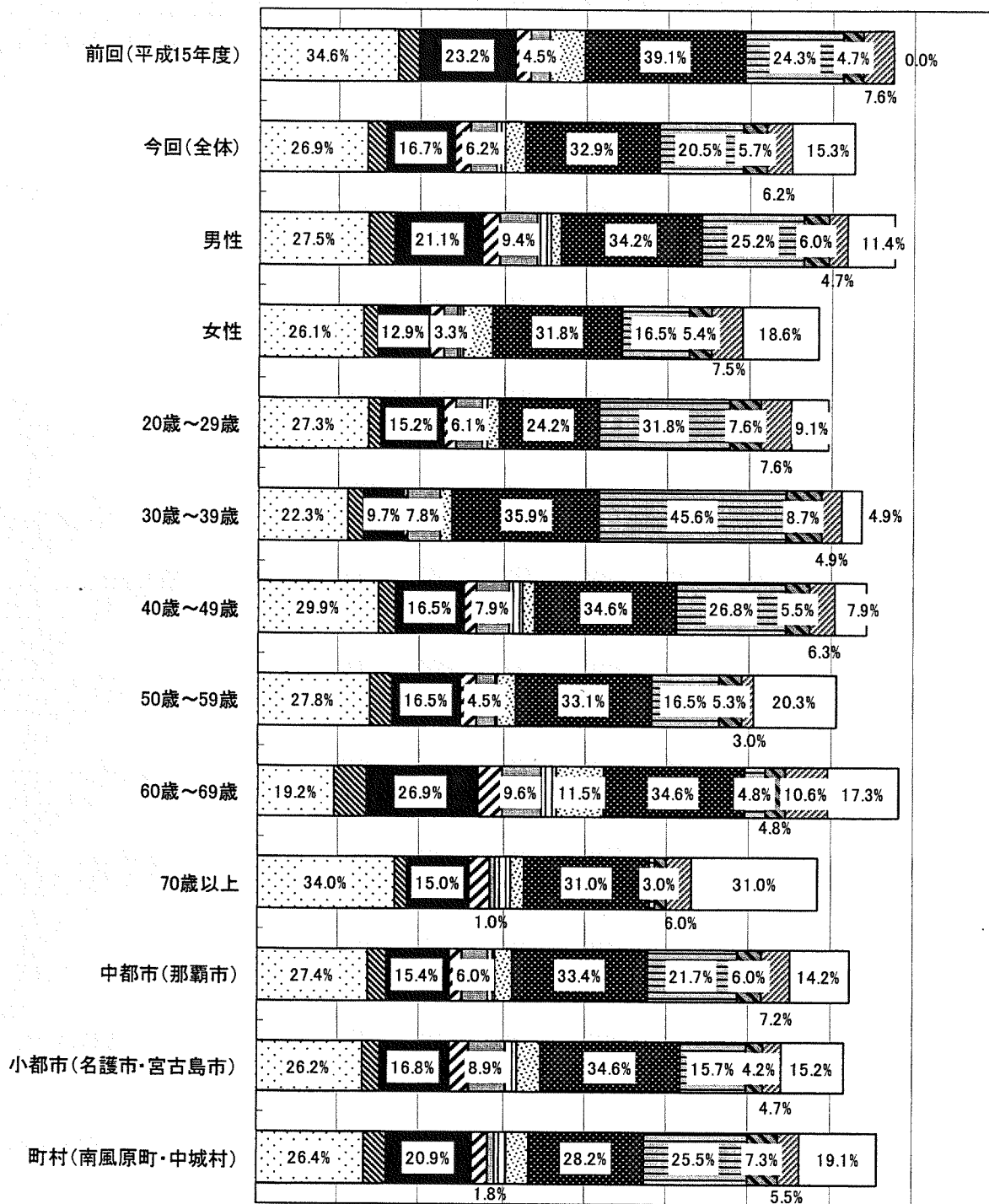
学習成果の活用状況を見ると、「日常生活の向上」が 32.9%で最も高く、以下「特に活用していない」(26.9%)、「職業生活への活用」(20.5%)、「同好のグループやサークルづくり・参加」(16.7%)、「学習ボランティア」、「学習成果の発表」がそれぞれ 6.2%と続いている。

前回調査と比較すると、上位4項目では同じ順位となっているが、「学習ボランティア」は前回の9位から5位となっている。

	今回の順位 (%)	H15 年度調査 (%)
日常生活の向上	1 (32.9%)	1 (39.1%)
特に活用していない	2 (26.9%)	2 (34.6%)
職業生活への活用	3 (20.5%)	3 (24.3%)
同好のグループやサークルづくり・参加	4 (16.7%)	4 (23.2%)
学習ボランティア	5 (6.2%)	9 (4.5%)
学習成果の発表	5 (6.2%)	6 (7.6%)

男女別にみると、男性が女性を特に上回っている項目は「職業生活への活用」(男性 25.2%、女性 16.5%)と「同好のグループやサークルづくり・参加」(男性 21.1%、女性 12.9%)となっている。

年代別にみると、「日常生活の向上」は年代に関係なく同様の割合となっている。また、「職業生活への活用」は、若い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に30歳代で45.6%、20歳代で31.8%と高い(全体 20.5%)。



- ①特に活用していない
- ②講座・教室・講演などの講師
- ③同好のグループやサークルづくり・参加
- ④自主的な団体活動
- ⑤学習ボランティア
- ⑥青少年活動
- ⑦上記以外のボランティア
- ⑧日常生活の向上
- ⑨職業生活への活用
- ⑩上記以外の活用
- ⑪学習成果の発表
- 無回答

	標本数	学習成果の活用状況											無回答	
		① 特に活用していない	② 講座・教室・講演などの講師づくり、参加	③ 同好のグループやサークル	④ 自主的な団体活動	⑤ 学習ボランティア	⑥ 青少年活動	⑦ 上記以外のボランティア	⑧ 日常生活の向上	⑨ 職業生活への活用	⑩ 上記以外の活用	⑪ 学習成果の発表		
前回 (平成15年度)	448	155	22	104	17	20	—	38	175	109	21	34	0	
	100.0%	34.6%	4.9%	23.2%	3.8%	4.5%	—	8.5%	39.1%	24.3%	4.7%	7.6%	0.0%	
今回(全体)	633	170	29	106	23	39	14	30	208	130	36	39	97	
	100.0%	26.9%	4.6%	16.7%	3.6%	6.2%	2.2%	4.7%	32.9%	20.5%	5.7%	6.2%	15.3%	
性別	男性	298	82	18	63	12	28	10	7	102	75	18	14	34
		100.0%	27.5%	6.0%	21.1%	4.0%	9.4%	3.4%	2.3%	34.2%	25.2%	6.0%	4.7%	11.4%
	女性	333	87	11	43	11	11	4	23	106	55	18	25	62
	100.0%	26.1%	3.3%	12.9%	3.3%	3.3%	1.2%	6.9%	31.8%	16.5%	5.4%	7.5%	18.6%	
	無回答	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	0.6%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	
年齢	20歳～29歳	66	18	2	10	2	4	1	2	16	21	5	5	6
		100.0%	27.3%	3.0%	15.2%	3.0%	6.1%	1.5%	3.0%	24.2%	31.8%	7.6%	7.6%	9.1%
	30歳～39歳	103	23	4	10	1	8	0	3	37	47	9	5	5
		100.0%	22.3%	3.9%	9.7%	1.0%	7.8%	0.0%	2.9%	35.9%	45.6%	8.7%	4.9%	4.9%
	40歳～49歳	127	38	5	21	4	10	4	4	44	34	7	8	10
		100.0%	29.9%	3.9%	16.5%	3.1%	7.9%	3.1%	3.1%	34.6%	26.8%	5.5%	6.3%	7.9%
	50歳～59歳	133	37	7	22	5	6	1	6	44	22	7	4	27
	100.0%	27.8%	5.3%	16.5%	3.8%	4.5%	0.8%	4.5%	33.1%	16.5%	5.3%	3.0%	20.3%	
60歳～69歳	104	20	8	28	6	10	4	12	36	5	5	11	18	
	100.0%	19.2%	7.7%	26.9%	5.8%	9.6%	3.8%	11.5%	34.6%	4.8%	4.8%	10.6%	17.3%	
70歳以上	100	34	3	15	5	1	4	3	31	1	3	6	31	
	100.0%	34.0%	3.0%	15.0%	5.0%	1.0%	4.0%	3.0%	31.0%	1.0%	3.0%	6.0%	31.0%	
居住地	中都市 (那覇市)	332	91	15	51	10	20	6	13	111	72	20	24	47
		100.0%	27.4%	4.5%	15.4%	3.0%	6.0%	1.8%	3.9%	33.4%	21.7%	6.0%	7.2%	14.2%
	小都市(名護市・宮古島市)	191	50	8	32	9	17	5	11	66	30	8	9	29
		100.0%	26.2%	4.2%	16.8%	4.7%	8.9%	2.6%	5.8%	34.6%	15.7%	4.2%	4.7%	15.2%
町村(南風原町・中城村)	110	29	6	23	4	2	3	6	31	28	8	6	21	
	100.0%	26.4%	5.5%	20.9%	3.6%	1.8%	2.7%	5.5%	28.2%	25.5%	7.3%	5.5%	19.1%	

2-2 学習活動を支える条件

(問 12、問 13、問 14、問 15)

1 情報提供方法

問 12 今後、いろいろな学習や活動に関する情報をお知らせするとしたらどんな方法が最もよいと思いますか。(2つまで選んでください)

1. 市町村の広報で	6. テレビで
2. 公民館の広報で	7. ラジオで
3. 自治会などの回覧板や掲示板で	8. 新聞で
4. チラシ・ポスター・パンフレットなどで	9. ミニコミで
5. 知人や仲間などを通して口コミで	10. インターネットで

学習や活動に関する情報の提供方法について、「新聞で」と答えた人が 46.4%で最も多く、次いで「市町村の広報で」(37.6%)、「テレビで」(28.9%)、「チラシ・ポスター・パンフレットなどで」(25.3%)、「インターネットで」(13.3%)となっている。

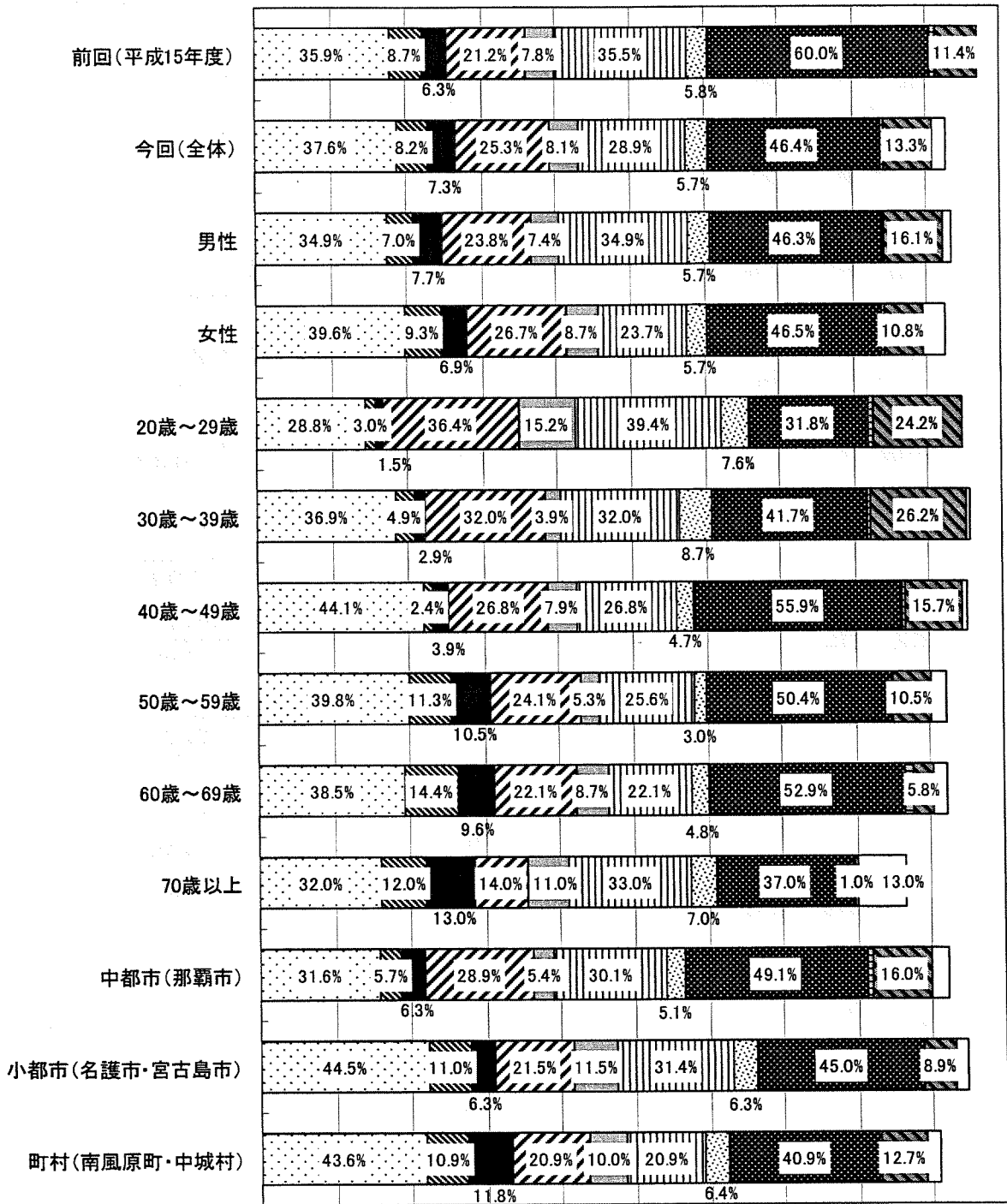
前回調査と同様の順位となっており、特に新聞や市町村の広報による情報提供が求められている。

	今回の順位 (%)	H15 年度調査 (%)
新聞で	1 (46.4%)	1 (60.0%)
市町村の広報で	2 (37.6%)	2 (35.9%)
テレビで	3 (28.9%)	3 (35.5%)
チラシ・ポスター・パンフレットなどで	4 (25.3%)	4 (21.2%)
インターネットで	5 (13.3%)	5 (11.4%)

男女別でみると、男性が女性を上回っている項目は、「テレビで」(男性 34.9%、女性 23.7%)、「インターネットで」(男性 16.1%、女性 10.8%) の 2 項目で若干割合が高くなっている。一方、女性が男性を上回っている項目は、「市町村の広報で」(女性 39.6%、男性 34.9%) となっている。その他の項目では、きわだった差はみられない。

年代別でみると、「新聞で」の割合が、40 歳代から 60 歳代で 50%以上と特に高い割合となっている。「市町村の広報で」は、40 歳代で他の年代よりも割合が高くなっている。また、「テレビで」と「チラシ・ポスター・パンフレットなどで」の 2 項目は、若い年代になるほど割合が高くなる傾向にある。

居住地でみると、「市町村の広報で」は小都市が 44.5%、町村が 43.6%となっており、中都市の 31.6%に比べて割合が高くなっている。



- ①市町村の広報で
- ②公民館の広報で
- ③自治会などの回覧板や掲示板で
- ④チラシ・ポスター・パンフレット
- ⑤知人や仲間などを通して口コミで
- ⑥テレビで
- ⑦ラジオで
- ⑧新聞で
- ⑨ミニコミで
- ⑩インターネットで
- 無回答